TIC NEWS

vol.101
2011.10

（公財）とやま国際センター
〒930-0856　富山市牛島新町5-5
インテックビル4F（タワー111）
TEL（076）444-2500
FAX（076）444-2600
E-mail：tic@tic-toyama.or.jp
URL：http://www.tic-toyama.or.jp

～第10回とやま国際塾～

７月16日～17日の二日間、射水市内及び呉羽青少年自然の家で「とやま国際塾」を開催しました。

参加した高校生は、ワークショップや料理体験などを通して様々な人とふれあい、国際交流・国際協力について理解を深めました。

とやま国際塾

日時：７月16日(土)～17日(日)
場所：射水市内及び呉羽青少年自然の家

「とやまで世界を感じよう！」を合言葉に、高校生を対象に開催してきた「とやま国際塾」も今年で10年目になりました。今回は高校生27名が参加し、富山県が受け入れている海外技術研修員、留学生、今年度のTICインターンシップ生も参加しました。

富山駅に集合した一行は射水市に向かい、射水市民国際交流協会で協会の活動について説明を受けた後、射水市の国際交流員リチャード・メドハーストさんに、映画「ハリー・ポッター」を題材に英会話の講義を受けました。

次に向かったのは、富山新港。富山県に暮らして長い、ロシア出身の高瀬ボンダレーンコ･オクサーナさんより「射水市に暮らして」というテーマでの講義、引き続き富山県富山新港管理局の茅野課長より伏木富山港の現状についての講義を受け、普段は入ることのできない富山新港の多目的国際ターミナルを視察しました。

夕方は、インド出身のプチャラパリ・スリニワスル・レッディさんから本場のカレー作りを全員で挑戦しました。そして夜はキャンプファイヤーで交流しました。

２日目は、英語でラジオ体操の後、異文化理解、多文化共生についての講義、そして「食」をテーマにした国際理解ワークショップにより国際交流、国際協力の重要性を学びました。

夏休みこども英語塾

日時：８月22日(月)～８月26日(金)
場所：環日本海交流会館

今年度も例年と同様に、夏休みこども英語塾を開催しました。４日間にわたって実施し、毎日、天気についての英語の挨拶から始まり、「It's a small world」のメロディを聞いて終わりました。

体を動かしながら英語を身につけようということで、講師である国際交流員の堀口陽世先生のもと、ビンゴゲーム、カードゲーム、「Simon Says」，ツイスターなどのゲームを楽しみながら、時間の言い方、気持ちを伝える形容詞、方向・位置を示す言葉、色や、国名などの単語を身につけました。

また、休憩時間には、ジャグリング、マジックなどの出し物もあり、子供たちはその動きに見入っていました。良い思い出になったようです。

初日に挨拶したときは、お互いまだ打ち解けず、おとなしかった皆さんですが、ゲームをやっていくうちに、日に日に仲良くなり、先生やインターンシップ生らともごく自然に話せるようになりました。英語の勉強以外に新しい友達ができたことも英語塾での１つの収穫ではないでしょうか。

多文化共生理解教室

日時：８月５日（金）
場所：魚津市本江公民館

とやま国際センターでは、地域の多文化共生を推進する一助として、地域に住む外国人住民の方が講師となる「多文化共生理解教室」を県内各地で開催しています。

今年度第一回目は、タイ王国チェンマイ出身の稲盛ワランカナーさんに、「タイの文化を理解する」というテーマで、８月５日（金）に魚津市本江公民館で開催しました。魚津市本江地区などから16人の参加をいただきました。

アンケートでは、「タイの風習や食べ物等文化にふれることができてよかった」「講師に親しみがあり良かった」など身近な外国人住民への理解につながる意見が多く聞かれました。

第2回日本海学講座「富山から見える地球温暖化と異常気象」

日時：７月23日（土）
場所：富山県教育文化会館

本年度２回目の日本海学講座は、富山県環境科学センター主任研究員の初鹿宏壮さんをお招きして開催しました。当日会場には定員を超える72名が受講し、外気に劣らぬ熱気が溢れていました。

講義は「１. 異常気象の定義と現在の世界の平均気温」「２. 富山県の気温変化」「３. 気温の上昇がもたらすさまざまな変化」「４. コンピュータを使った地球の将来予測」などについてお話されました。以下、講義からいくつかピックアップしました。

・世界の平均気温は、100年間に0.67℃上がっている。今後も、エネルギー多消費型の社会が続けば、100年後には最低でも２℃以上、最高では４℃ぐらい気温が上がるという試算がある。
・昔は入学式の頃にサクラが咲き始めたが、最近はもう散ってしまっている。また、昔はカエデの紅葉の始まりは11月の初めだったが、今は12月の初めになっている。
・30年位前までは、真夏日は１年に20～30日だったが、最近は真夏日が40日を超えており、９月に入ってもまだ暑い日が続く。

もちろんこれらの予測は、今後、温暖化防止活動を一生懸命やることで、かなり緩和されるし、そのためにも県民の方々にわかりやすい情報を伝え、温暖化防止活動への積極的な参加を促していきたい、として講義が締めくくられました。

参加者からの質問では「南砺市でも酸性雨の影響が心配されている。森林の二酸化炭素吸収力も下がっている。富山県のメインは水だ。50年後富山県民は腹いっぱい、おいしいお米を食べられますか？」と発言があり、初鹿さんは「富山は水に恵まれている。水を大切にしていけば、富山ではおいしい作物が採れ続けるだろう。」と答えられました。

富山の“おもてなしの心”を海外からのお客様にもお届けしましょう!

とやま国際センターでは今年度より”外国人旅行客おもてなし出前講座”を実施しています。

富山県で外国人旅行客を見ることも珍しくなくなってきた昨今ですが、実際の富山県における外国人旅行客の動向はどのようになっているのでしょうか?

去る８月25日の富山県の発表によると、平成22年の富山県観光客入込総数は16,646千人。平成21年に比べ4.7%減少しましたが、外国人宿泊者数は前年に比べ54.5%増加し、総宿泊数2,563千人のうち96千人を占めました。

平成23年３月11日の東日本大震災、その後の福島第一原発事故の影響、また戦後最高値を更新した円高傾向もあり、外国人旅行客の入込数は減少するのが必至とみられました。実際に、昨年全線開通初日の客数のうち半数は外国客が占めたという黒部・立山アルペンルート、また五箇山などでは旅行客のキャンセルが相次ぎました。５月以降毎日運航を目指した富山―大連―北京便も週４便運航を延長、台湾からのチャーター便も大幅減となりました。

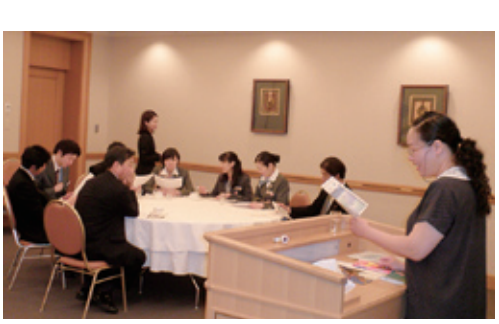
しかし５月には台湾からの観光客などにもう回復の兆しが見られ、６月に立山・黒部アルペンルートを訪れた台湾人観光客は前年同月比75%増の8,400人となりました。また、７月には中国の団体ツアーが震災後初めて富山空港に到着しました。

この背景には石井知事自らのトップセールスによる５月の北京・大連での観光説明会、さらには７月のシンガポール・タイにおける観光説明会など、風評被害を払しょくし、新たな観光客誘致を積極的に行ったことがあると考えられます。

９月１日から１年間、中国の個人観光ビザから「一定の職業上の地位および経済力を有する者」から役職の条件が撤廃され、滞在期間も15日から30日に延長されることから、今後は中国人の観光客増にも期待がもてます。

外国人旅行客おもてなし出前講座　開講!!

“外国人旅行客へのおもてなし”を学ぶ講座として5月
県内でこれまで開催した講座について、一例をご紹介



対象国等：台湾
講師：鄭　妙玲 氏
会場：ANAクラウンプラザホテル富山
日時：６月９日、６月16日

台湾では“哈日族”（ハーリーズー）という日本文化に関心の高い若年層が多いですが、日本でお土産を買おうとして日本製の商品がなかったらがっかりしてしまいます。また日本統治下の台湾に育った年配の方は日本語が今でも話せます。つまらない内輪話をしていると相手に分かってしまいますので気をつけましょう。

台湾人にはバナナではなくてリンゴなどを出す方がいいでしょう。バナナは台湾にたくさんありますので……。

一般的に日本のお客さんと違って、使った部屋をきれいにしてから退出するという考え方は台湾にはあまりありません。

団体客のリーダー的存在の方の面子は立てるようしましょう。そして個人客はリピーターとして何度も足を運ぶかもしれない大事なお客さんですので大切にしましょう。

中国人は写真が大好きです。旅行
をとりあえずとってあげるとよいで
ので、そういったものを写真にとり
また集合時間に遅れるのを見越し
中国人はお土産を１人１人にあげ
ターなどの小物を買う人も多いです
い場合は予め看板などで説明してお
体を洗って湯船に浸かるという習
人が多いです。また中国のトイレは
付けの箱に捨てるという習慣があり
ブルを避けることができるでしょう

知って面白い！各国の旅行事情

中国

中国人の人気旅行地はアジア・大洋州が中心。中でも香港、マカオが人気。それに次いで韓国、シンガポールとなっている。訪日中国人の訪日動機のうち最も大きな比重を占めるのがショッピング(50.9%)、次いで温泉(39.7%)。訪日中国人観光客の１人当たりの旅行中の消費総額は23万6,570円、うちお土産・物品購入費が11万6,568円と極めて高い。お土産の品目としては化粧品、菓子等が人気で、購入場所は空港免税店が53.0%と突出している。

韓国

2009年の出国率は19.5%と日本の12.1%を上回り、人気の外国旅行先は中国、日本、アメリカの順になっている。2004年から段階的に導入された週休二日制や航空便の拡充等により、訪日旅行はより手軽なものとなっている。訪問先を絞り滞在期間を短くして、代わりに何度も訪れる傾向にある。

ロシア

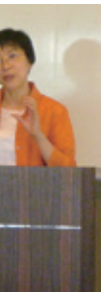
外国への憧れや避寒地でのくつろぎが動機になっているが、外国旅行増加の背景には富裕層の増加や国内線より割安な国際線航空運賃等の存在がある。ロシア人の訪問上位５カ国は、ウクライナ、中国、カザフスタン、トルコ、エジプトとなっている。またロシア人は日本のサービスの良さに驚くことが多い。福利厚生や社員教育に投資する企業が増えていることから新たな旅行者層として社員旅行が浮上することが見込まれる。

台湾

国土が狭いことも影響して、外国旅行が一般的なレジャーとして定着している。人気の渡航先は中国大陸、日本をはじめとしたアジア諸国。台湾からの訪日観光客のうちリピーターは77.0%に達し、個人旅行や、より新鮮味のあるツアーを求めるようになっている。これに伴いよりきめ細かい情報提供が求められている。

出典：JNTO国際観光白書2010(日本政府観光局(JNTO))

月から開講した「外国人旅行客おもてなし出前講座」。
します。



対象国等：中国
講師：張　敏 氏
会場：となみ散居村ミュージアム
日時：７月17日

行の際は、観光地の説明はさておき、写真撮影の時間
でしょう。中国には露天風呂などはあまりありません
りたがる傾向があります。
して早めに集合時間を設定するのがいいと思います。
げる習慣があります。お土産としてはご当地キャラク
す。中国では値切りは当たり前なので、値引きできな
おくといいでしょう。
習慣もありません。中国ではシャワーだけで済ませる
はよく詰まることがあってトイレットペーパーは備え
ります。このようなことも事前に説明することでトラ
。

外国人旅行客おもてなし出前講座

実施期間：平成23年５月１日～平成24年３月31日
講座内容：外国人旅行客との挨拶、簡単な日常会話、文化・習慣等を学びます。
１回60分　無料で講師を派遣します。
対象国等：中国、韓国、台湾、ロシア等
対　　象：富山県内の旅館、飲食店、土産店、交通事業者、観光関係者等
問合せ先：公益財団法人とやま国際センター
〒930-0856 富山市牛島新町5-5 インテックビル４階
TEL 076-444-2500　FAX 076-444-2600
Email tic@tic-toyama.or.jp
http://www.tic-toyama.or.jp/course/post_8.html
ホームページより申込書がダウンロードできます。

お気軽にお問合わせください!!

JICAボランティア平成23年度秋募集が始まります!

今、開発途上国では様々な分野において、わたしたちの技術・知識・経験が必要とされています。あなたも、海外ボランティアへの扉をたたいてみませんか!?

募集期間：平成23年10月１日(土)～11月７日(月)

上記募集期間中、下記の日程で「体験談＆説明会」を実施します。予約・参加費は不要です。興味のある方なら、どなたでもお越し下さい!

○青年海外協力隊＆日系社会青年ボランティア（20歳～39歳対象）

期　　日	時　　間	説 明 会 場
10月１日(土)	14：00～16：00	サンシップとやま　704号室
10月16日(日)	14：00～16：00	CiCビル３階　会議室１

○シニア海外ボランティア＆日系社会シニアボランティア（40歳～69歳対象）

期日	時間	説明会場
10月１日(土)	10：30～12：30	サンシップとやま　704号室

職種：農林水産、加工、保守操作、土木建築、保健衛生、教育文化、社会福祉、観光・商業、スポーツなど多種

主催：独立行政法人国際協力機構(JICA)北陸支部
連絡先：JICA国際協力推進員(富山県デスク) 竹中成行　TEL 076-444-2500　E-mail jicadpd-desk-toyamaken@jica.go.jp
ボランティアに関する詳細情報はJICAホームページでもご覧になれます。　URL:www.jica.go.jp

JICAボランティアからの現地リポート

今回はボツワナ共和国から届いた青年海外協力隊　今井美峰さんからのお便りをご紹介します。

今井　美峰さん
派 遣 国：ボツワナ共和国
職　　種：環境教育
派遣期間：平成22年６月～平成24年６月
配 属 先：非政府組織ソマレラン･ティコロホ

南アフリカがワールドカップで盛り上がっていた頃、その隣の国ボツワナに来てから14カ月が経ちました。こちらののんびりした生活に慣れ、“待つ”ことにもすっかり慣れました。人はのんびりしていますが、私の活動している首都ハボロネは、アフリカらしからず比較的近代的な場所で生活も安定しています。首都で水、電気、食に困ることはありません。

私は環境教育オフィサーとして、首都の真ん中にあるNGO Somarelang Tikologo（ツワナ語で“環境ウォッチ”という意味）で活動しています。活動場所は街の中の公園にあり、学校帰りの子供たちが毎日遊びに来ます。その子供たちに環境プログラムを実施するのが私の日課です。楽しく遊びながら、生活環境に対する意識を身につけることが目的です。

内容は、環境かるたを作って遊んだり、クイズラリーをしたり、時間のあるときにはエコクラフトなどを行います。毎日15人から30人程の子供たちがプログラムに参加します。学校帰りに急いで公園に来て、「みほ～、今日は何をするの？」とか「新しい友達も連れてきたよ」と言われるととても嬉しくなります。

その他の活動は、ガラス瓶のリサイクル活動や低所得家庭での野菜の有機栽培の普及活動を行っています。ボツワナは、急激に都市化が進んでいる国の一つであり、生活廃棄物処理の対策が追い付かず、国レベルでのリサイクル活動はされていません。国内にリサイクル施設自体もありません。（回収した容器等はそのまま南アフリカや近隣国に輸送しています。）そのため、私の配属しているNGOが行っているリサイクル活動はとても意味のあることだと思っています。

活動を開始して一年、人に教えられることの方が多く、自分の力のなさを日々感じながらの活動ですが、周りの人たちが見返りも求めず優しくしてくれるので、その精神を見習い、残りの活動をさらに有意なものにしていきたいと思います。

Voices from the world ～ブラジル サンパウロ～

世界の富山ファンからのメッセージ

上田 タイスさん（アーティスト）

Q．今、どんなお仕事をされていますか？

A．アーティストとして活動しています。絵はペンシル画がほとんどで、女性の問題を描きます。例えば美しさや、現代生活の“過剰”について描きます。その他、版画や油絵、編み物などいろんな技法を用います。編物ではCrochet jardim（編みの庭）というブランドも開設しました。またアーバンアートにも関わっていまして、2008年にはブラジルへの日本人移民100周年というテーマで文化センターや学校など公共の場所に描きました。

今年は富山市の立山画廊で個展を行う機会があり、夫と娘と一緒に富山に来ました。立山画廊の社長は私たちの娘のために梅の木を植えてくれました。娘が大きくなったら必ずまた富山に来たいと思います。

夫のアレクスさんと娘のフジちゃん

Q．ブラジルの近況について教えてください。

A．ブラジルは今の世界的経済危機の影響をあまり受けておらず、ブラジル人は物事を楽観視しています。2014年にはFIFAワールドカップ、そして2016年にはオリンピックも行われます。みんなはブラジルが良い国になるという期待を持っています。

Q．富山とはどんな結びつきがありますか？

A．私は富山県には親戚はいませんが、2004年に富山県海外技術研修員として山田写真製版所でグラフィックデザインを勉強し、その時出会った人たちに大きな愛情を感じています。ブラジルに帰ってもメールや手紙を書いてよく連絡をとっています。

Q．最後に富山の人に一言メッセージをお願いします。

A．去年からサンパウロの富山県人会の活動に参加し、富山をいつも身近に感じています。研修員の頃の楽しい思い出がいっぱいです。富山の人は自然を尊重し大切にするので、住むには美しい所です。皆さんもブラジルに来てください！

こんな“国際交流”やっています！

～“Arvyniaファッション・ショー”
Arvyniaファッション・ショー実行委員会（滑川市）～

～TICから助成した事業をご紹介します～

JET青年など（JETプログラム＝語学指導等を行う外国青年招致事業）を中心にしたメンバーによるArvyniaファッション・ショーが、平成23年６月18日、CiCビル５階いきいきKAN多目的ホールにおいて開催されました。

参加者手作りの洋服を披露するファッション・ショーがメインとなりました。演劇も交えた豪華なファッション・ショー。洋服はすべてオークションによって観客に販売され、その収益は寄付されました。

その他カポエイラや音楽の演奏がステージで披露されました。また会場では各国の料理を楽しんだり、モデルと記念撮影したりする姿も見られました。

この収益は富山愛育園、日本赤十字社、スコットランド自閉症協会に寄付されました。

作ってみよう！アメリカ料理

グリーン・エンチラーダ

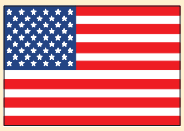
アメリカ合衆国出身
布谷 クリスティーナさん
お薦め料理！

クリスティーナさんと娘の優羽ちゃん

エンチラーダはフィリングを詰めたトルティーヤを巻いて、唐辛子のソースをかけるメキシコ、中南米発祥の料理です。

ニューメキシコ州はアメリカでもヒスパニック系の最も多い州で、スペイン人のもたらした食文化とインディアンの食文化が融合し独特のニューメキシコ料理ができました。

また唐辛子は州の野菜にも指定されており、この地方の食には欠かせません。ニューメキシコのレストランではどこでも食べることができ、家庭でもよく作られる一品です。



～作り方～

1．植物油を塗った唐辛子を、ガスコンロなどで焦げ目がつくまであぶり、冷ます。冷めたら中の種を取り、皮の焦げをとる。
2．1と粗く切った玉ねぎ、ニンニクをフードプロセッサーにかける。
3．鍋に2と鶏がらスープ、オレガノ、塩、コショウをあわせ、中火で煮たてる。その後20分程度弱火で煮る。ソースの辛さはここで調整する。
4．200度に温めたオーブンで、オリーブ油と塩、コショウをふった鶏肉を焼く。きちんと火が通るまで4～5分焼く。冷めたら細かく裂く。(肉はゆでてもOK。)
5．油で熱したフライパンでトルティーヤに焼き目をつける。表裏それぞれ20秒程度焼く。
6．トルティーヤにソースを塗り、鶏肉とチーズを入れて巻く。
7．耐熱皿にソースをしきつめ、トルティーヤを並べ、さらにソースとチーズを上からかける。200度のオーブンでチーズが溶けソースが固まってくるまで焼いて出来上がり。

～材料～（4人分）

青唐辛子	4～5本
鶏がらスープ	4カップ
ニンニク	1片
玉ねぎ	小1/4個
乾燥オレガノ	小さじ1
塩	大さじ1/2
黒コショウ	小さじ1
鶏肉	800g
オリーブ油	大さじ3
ピザ用チーズ	170g
市販のトルティーヤ	12枚

TICからのお知らせ

これからの行事予定

国際交流フォーラム
11月5日(土) 13:30～15:00　高岡市生涯学習センター4階ホール（ウィング・ウィング高岡内）
講演　“笑いは世界の共通語～国境なき芸能団の活動～”
笑福亭　鶴笑 氏(入場無料)

国際交流フェスティバル
11月12日(土)、13日(日) 富山駅前CiCビル内
外国人カラオケ大会、ロシア語スピーチコンテスト等

日本海学講座
第3回　10月6日(木) 9:00～15:00　魚津市内(埋没林博物館他)
「魚津三大奇観と歴史探訪」　講師　魚津市学芸員のみなさん
第4回　11月26日(土) 13:30～15:00
高岡市生涯学習センター研修室503（ウィング・ウィング高岡内）
「シベリアの原野・森林火災と環境変化」
講師　富山大学極東地域研究センター　串田　圭司 准教授

(公財)とやま国際センター賛助会員募集及び寄付のお願い

公益財団法人とやま国際センターは、民間レベルの国際交流、国際協力を推進するため、様々な事業に取り組んでいます。TICの事業にご支援いただける賛助会員の方を募集しています。

年会費（1口）個人会員　3,000円
団体会員　30,000円

また、財政基盤の充実を図るため、寄付についてもよろしくお願い申し上げます。

外国人生活相談　言語別対応スケジュール

英語、ポルトガル語、ロシア語、中国語、韓国語、ウルドゥ語による生活相談を行っています。お気軽にご相談ください。

【場所：(公財)とやま国際センター　富山市牛島新町5-5　インテックビル4階　TEL 076-444-2500】

	月	火	水	木	金
英語	13：00～17：00	―	13：00～17：00	―	13：00～17：00
ポルトガル語	12：30～17：00	12：30～16：30	9：00～12：00 13：00～17：00	12：30～16：30	12：30～16：30
ロシア語	―	―	13：00～17：00	―	13：00～17：00
中国語	―	―	13：00～17：00	12：30～16：30	―
韓国語	―	―	13：00～17：00	―	―

【場所：射水市小杉庁舎1F相談室　射水市戸破1511】
ウルドゥ語　第2、4金曜日　14：00～17：00

“電話通訳サポート”

外国人の方が直接専門機関に相談されたい場合、電話通訳サポートがご利用できます。三者通話機を使い相談員が通訳をします。
※ただし、ウルドゥ語を除く。

電話通訳サポート専用ダイヤル　076-441-5654